

## 「第二十五回戦歿者追悼中央国民集会」

英霊にこたえる会

中條高德 会長挨拶

本日は、厳しい暑さの中、早朝からの本会主催「全国戦歿者慰霊大祭」に引き続き、多くの皆様が、この席にお出で頂き、「第二十五回戦歿者追悼国民集会」をこのように盛大に行うことが出来ましたことを、心から御礼申しあげますと共に、お忙しい中、私共の為にご提言を賜わります壇上の諸先生方に対し、厚く御礼申し上げます。

本年三月十一日に発生しました、マグニチュード9.0の大地震は、大津波を引き起し、原子力発電所事故と相俟って、東日本に未曾有の大被害をもたらしました。大地震発生から五ヶ月を経た今日、菅政権の下での被災地復興の歩みは遅々としておりますが、本席において、改めて犠牲となられた皆様のご冥福と被害を受けられた方々の一日も早い復興を、ご参集の皆様と共に祈念申し上げます。

この東日本大地震は、太平洋プレートと北米プレートとの地殻変動の自然現象ではありますが、戦後の日本人が物資偏重で精神的価値をなおざりにし、東京裁判自虐史観の呪縛から脱却できず、尊い一命を捧げて国に殉じられた二百五十万のご英霊を祀る、わが国の戦歿者追悼の中心的施設である靖國神社にも参拝しえない政治姿勢や、領土問題、拉致家族等をめぐる日本政府の不甲斐なさに、靖國神社に鎮まりますご英霊が日本国民に下された「天の戒め」と自戒の念を深くするものであります。

御承知の通り、小泉純一郎総理が十六年振りに公式参拝を實行され、在任中は毎年、靖國神社参拝を行なわれましたが、後継の安倍総理、次いで福田総理、麻生総理と三代続いて総理として靖國神社不参拝のまま退陣されました。

平成二十一年夏の総選挙で、自由民主党が大敗を喫し、民主党主体の政権が誕生いたしました。鳩山総理や菅総理は、自身の靖國神社不参拝にとどまらず、全閣僚、政務官に至るまで参拝を自粛させる有様でした。

この様な環境で、国政に係わる国会議員の方達の靖國神社参拝の実績は、どうだったのでしょうか。民主党政権下になって、平成二十一年と二十二年の秋の例大祭、平成二十二年と二十三年の春の例大祭、それに平成二十二年の八月十五日と本日の六回のうち、本日を除く五回の参拝機会です。本人の参拝は、五回すべて一割以下であり、代理参拝も含めて最高が二十二年秋の百二十八名で一七・七三%でした。

社会党の村山富市総理時代の平成七年の秋の例大祭の時です。国会議員は代理を含めて二百名の参拝であったことを思うとき、この体たらくは、どう評したらよいものでしょうか。

靖國神社に総理として参拝しなかった内閣は、短命で任期を全うしなかったという歴史の事実が示すとおり、小泉内閣の後の安倍、福田、麻生の三代の内閣、ついで民主党主体の鳩山内閣いずれも短命であり、現菅内閣もその徴候を示しつつあります。

東日本大震災で、二万三千人の無辜の国民が犠牲となり、未曾有の被害を受けましたが、日本国民は、マツカ―サーの占領政策、特に東京裁判自虐史観で失われつつあった「日本人の心」を覚醒させ「大和魂」をとり戻しました。震災後の被災者をとった対応姿勢の素晴らしさに感銘した諸外国、国民の間にひろがった救援と支援の輪、これまでの最大規模の諸外国支援の申し出に見られる国際的友誼、熱き友情は、日本国民が「大和魂」をとり戻した証左とも言えるでありましょう。

天は、日本の現状を戒め、戦後最大の試練を日本国民に与えましたが、「大和魂」をとり戻した日本人は、同胞相助け合いこの試練に立ち向い、一日も早い復興を成し遂げねばなりません。その為には、総理以下全閣僚、全国会議員が、まずは靖國神社に参拝し、東日本大震災から速やかに復興し、「美しい国日本、世界に誇れる国日本」を再建するため、二百五十万のご英霊のご加護を祈念することから始めるべきであります。

また、この度の大震災に対する今上陛下・皇后陛下のお心配りに見られる、国家非常の際における天皇陛下の機能は、わが国がこの困難を乗り切る最大の力となるものです。

私どもは、今、天皇・皇后陛下の御心を体して、国民一丸となって一日も早い復興を成し遂げるべく尽力することを、靖國神社に鎮まります二百五十万のご英霊にお誓いし、ご加護を祈念申し上げ挨拶と致します。

平成二十三年八月十五日

英霊にこたえる会

会長 中條 高德